

SANPO



ミニシアター
行ってみよ。

まえがき

こんにちは、伊藤舞佳と申します。

お手にとっていただきありがとうございます。

3年時の初め、漠然と「映画が好き」という理由から

自分が取り組むテーマを「映画」と決めた私でしたが、

あまりにも漠然とし過ぎていたため

『テーマに基づいた動画素材を集めてくる』という課題につまづきました。

そんな時、父からミニシアターという施設の存在を聞かされたことから

興味を持ち初めて足を運びました。

その際、自分以外の観客の方が全員親世代以上の方であったことから

若者世代には馴染みのないものだと感じ

この施設のこともっと若者にも広められないかと思いました。

そして卒業制作のテーマとしてミニシアターを取り上げようと決めました。

私自身も、この卒業制作を機に

ミニシアターへの理解を深めている身ではありますが

この雑誌を通して自分と同世代の方だけでなく

元々ご存知だった方も色々と振り返っていただければと思います。

伊藤舞佳

04

ミニシアターってこういう場所です。

06

名古屋にあるミニシアター

08

【インタビュー】

劇場を運営する方に伺ったミニシアターのあれこれ

08

シネマスコーレ

14

大須シネマ

20

【コラム】

卒業制作を通して感じたこと、考えたこと。

ミニシアターってなんという場所です。

日本でミニシアターが何個あるかご存知ですか。コミュニティシネマセンターがまとめた「映画上映活動年鑑2022」によると、日本の映画館3672館のうち、シネコン以外が占める数は428館だそうです。

しかし、同年に映画館で公開された1173作品のうち、617本はミニシアターでしか上映されていないとのこと。つまり、ミニシアターは少ないスクリーン数の中でも、そこに行かなければ観られない作品と出会わせてくれる場所なのです。そんなミニシアターについて解説していきます。



1 小さいだけじゃないんです。

ミニシアターとは、日本の映画館のうち、大手映画会社からの直接の影響下に無い独立したものを指します。大手の配給ルートに乗らないインディーズ（独立）系などの受け皿として、また映画文化の多様性を生み出す存在としての役割も持ち、元々は「アートシアター」と呼ばれ、アート系の作品を専門的に上映してきた場所でした。世の中で当たり前とされていることへの疑問や対抗を描くなど、全世代に受け入れられる内容に傾きがちな大作系とは趣が異なり、当時は先鋭的な作品が多かったそうです。ミニシアターはそんな作品を受け入れる場所として始まった場所です。番組編成の妙味や映画館の独自性で勝負する、支配人の個性が浮き立つ場所でもあります。

ミニシアターからデビューした作品

『ニューシネマパラダイス』1988年

ジュゼッペ・トルネーレ 監督

『幻の光』1995年 是枝裕和 監督

『アメリカ』2001年 ジャン・ピエール＝ジュネ 監督

『ぼしのこえ』2002年 新海誠 監督

『この世界の片隅に』2016年 片淵須直 監督

『カメラを止めるな!』2017年 上田慎一郎 監督

『ドライブ・マイ・カー』2021年 濱口竜介 監督

2 劇場ごとに個性が出てます。

前述の通り、劇場ごとに独自性を放っているというのがミニシアターの最大の特徴であり強みです。例えば、愛知県名古屋市にあるシネマスコーレの構成プログラムの基本は「スタッフが面白いと思った作品を上映する」こと。

また、トークショーや舞台挨拶といった作品の作り手と観客との距離を縮めるイベントも積極的に行っており、「この劇場で映画を観た」という記憶を残すことができるのがこの劇場ならではの特徴なのです。



鑑賞方法も指定席方式と整理番号方式と劇場により異なる。

3 色んな歴史があるんです。

ミニシアターの始まりは1974年。若波ホールの総支配人だった高野悦子さんと彼女を支えた川喜田かしこさんがエキブ・ド・シネマ（フランス語で「映画の仲間」の意）をスタートし、ロードショー公開されない世界中の良作を上映する運動を始めたことから、1980年代になると大都市を中心に多くのミニシアターが開館。2000年代前半にかけては「ミニシアターブーム」が巻き起こり、1994年公開の『レオン』や1996年の『トレインスポッティング』、2001年の『アメリカ』などに若者が熱狂しました。作品自体だけでなく、劇中の音楽やファッションも流行したそうです。しかし21世紀になると、シネコンでもミニシアター作品が上映されるようになり、配給会社とシネコンの力関係などといった様々な事情とも重なり、その地域ではシネコン

でしか上映しないミニシアター作品も現れるようになりました。その結果、シネコンとミニシアターの棲み分けが崩れ、人気が下火となり2010年頃から閉館が続いていましたが、近年では2017年公開のミニシアター発の作品『カメラを止めるな!』が社会現象となり再び注目を集めました。しかし、2020年から猛威を振るった新型コロナウイルスの影響によりミニシアターは再び窮地に立たされます。その経営規模の小ささから、一般的なシネマコンプレックスと比べ経営状態への影響が凄まじく、観客ゼロの回が出てしまう劇場や休館に踏み切る劇場が続出しました。そのような状況の中、ミニシアターを応援する活動が立ち上がりました。



SAVE the CINEMA

「ミニシアターを守りたい」その想いから、有志の呼びかけ人・賛同者によって立ち上がったプロジェクト。政府に対して緊急支援を求める要望書を作成し、政府や関係省庁へ提出した。



- # 映画館へ行こう
- # minitheaterpark
- # minitheateraid
- # savethecinema
- # weneedculture

ミニシアターパーク

俳優の井浦新さん・斎藤工さん・渡辺真起子さんが発起人となり立ち上げた、コロナ禍のミニシアターを応援するプロジェクト。映画館を広場・公園のようなものと捉え、誰もが自由に参加しアイデアを共有していける方法を考え、具体化していく場所となるよう目指している。

ミニシアター・エイド基金

小規模映画館を支援することを最大の目的とし立ち上がったクラウドファンディング。劇場で利用できる「未来チケット」などを返礼品としたクラウドファンディングに約3万人が賛同し、3億円もの支援金が集まり、103団体が運営する118劇場へ分配された。

大須シネマ

interview...P14

名古屋初の映画が生まれた街、大須商店街に30年ぶりに復活した映画館。



シネマスコール

interview...P8

黄色い日除けが目印の歴史あるミニシアター



伏見ミリオン座

1950年に名古屋市人口が100万人を超えたことを記念して命名された開館。「感動は日常」をコンセプトに、単独系作品を厳選して上映している。また、スターキャットが提供する放送・通信サービスと映画館のサブスクサービスをセットにした日本初のメニューを開始したり、SDGsに特化した映画祭を開催するなど新たな試みを積極的に行っている。

座席数：417席

住所：中区錦2丁目15-5 TEL：052-212-2437

アクセス：名古屋市営地下鉄鶴舞線・東山線

伏見駅1番出口より徒歩1分



センチュリーシネマ Century Cinema

名古屋パルコ東館8階にある、栄エリア唯一の映画館。元々「アストロドーム」というプラネタリウムがあり、その跡地が映画館に改装されて開館。開館当初はロビーにパソコンを設置し、飲食代プラス200円で1時間のインターネット利用ができる「メディアラウンジ」があった。

座席数：199席

住所：中区栄3丁目29-1 名古屋パルコ東館8階

TEL：052-264-8580

アクセス：名古屋市営地下鉄名城線 矢場町駅

東館B1階直結地下通路から徒歩5分



名古屋にあるミニシアター

名古屋シネマテーク

(※2023年7月28日をもって閉館)

今池の雑居ビルの中にひっそり佇む、知る人ぞ知るミニシアター。階段でビルの2階に上がると目に入る、廊下の壁一面にびっしりと貼られたポスターが劇場の目印。映画上映だけでなく、一万冊以上の映画関連の書籍や雑誌・パンフレットを所蔵する映画図書館を併設しており、会員であれば無料で非会員も有料で貸出可能だった。

座席数：42席

住所：千種区今池1-6-3 今池スタービル2F

アクセス：名古屋市営地下鉄東山線・桜通線 今池駅より徒歩5分



NEWS

旧名古屋シネマテークの跡に新たな映画館が誕生！

2023年12月5日。同年7月に41年間の幕を閉じた名古屋シネマテークは同じ場所で新たな映画館を開館させる準備を進めていることを発表。新たな映画館の名前は「ナゴヤキネマ・ノイ」。「ノイ」はドイツ語で「新しい」を意味している。2024年2月頃のオープンを目指してクラウドファンディングをスタートさせた。



名演小劇場 (※2023年3月23日をもって閉館)

1972年に演劇や音楽などの公演を行う劇場として開館。芝居を上演しない日はゲストを招いてトークショーを交えた映画の特集上映を開催したり、市民映画祭の会場として場所を提供するなど映像文化の発展に貢献。夏休みシーズンには人形劇・児童劇や子供向け映画を「夏休み子供劇場」として提供していた。2002年からは映画館として国内外の作品を発信し続けていた。

座席数：計154席

住所：東区東桜2丁目23番7号

アクセス：名古屋市営地下鉄東山線 栄駅5番出口より徒歩10分

木全さん

Q1 木全さんのミニシアターとの出会いについて教えてください。

● この映画館を作った時はミニシアターという概念は無かったんです。映画館を作ったのは1984年だけど、ミニシアターという言葉が出てきたのはおそらく1986年以降からだと思います。それまではミニシアターという言葉は使われていなかったんだと思います。当時は映画の制作者達が8ミリとか16ミリの自主上映をやっている時代と重なって、そういう人達の作品をかける小屋としての場所が徐々に全国的に増えてきて総体としてそれを「ミニシアター」と呼ぶようになったんだと思います。

Q2 今まで色々な作品を上映されてきたと思いますが、その中でも思い入れのある作品は何かありますか。

● 86年の『夢見るように眠りたい』っていう映画かな。それから88年の『赤い荒野』。これは中国映

画。

— 過去のインタビューなどを拝見して、中国映画と独立映画が大好きだとお聞きしました！

● 中国映画は86年から上映しているよ。その中で登場したのがさっき言った作品。それから89年の『ゆきゆきて、神軍』。

— ゆきゆきて…？

● そう、『ゆきゆきて、神軍』。『神の軍』と書くんですよ。もうじきシネマテークでもやりますから、ちょっと注目してみてください。

Q3 次に作品に関してなのですが、これから特に若者世代に見てほしい作品はありますか。

● んー。若者って何歳くらいなの？ 20代？ 30代くらいなの、ちょうど私くらいの年齢層です。

● 一番は『青春ジャック〜止められるか、俺たちを2〜』かな。これはちょうどこの映画館ができた頃の話で、若者に…まあこれから社会に出てくる人達にとっては非常に参考になる映画だと思います。— ありがとうございます。

● うーん。20代ねえ…じゃあ最近映画館では何を見に行ったの？

— 最近では…もう映画館で観に行ったものだと、一般的に流行った『スラムダンク』ですね。私はミニシアター自体に興味を持ったのが最近のこと、なかなかどの作品から観に行ったらいいのか、ということがありました。

● 何でミニシアターに関心を持ったの？

— 昨年の夏に大学のゼミの課題で、自分が決めたテーマに沿ったものの動画素材を集めてくるというものがあって、私は映画を撮るうかが悩んでいた際に父から、『名古屋は有名なミニシアターが多いから、ミニシアター行ってきたら…？』と言われたのがきっかけでした。

● 何でお父さんはミニシアターに興味を持ったの？

— それは聞いていないのですが、元々父は映画が好きで、名古屋出身ということもあって知っていたんだと思います。

● まあ、そういう段階だと20代の方は皆さんシネコンに行かれると当然アニメーションとかの作品も入ってくるのでその人達がミニシアターに来るには、相当遠い道のりだなあと（笑）

— そうですね。実はこの卒業制作を行うにあたり、事前に20代を対象にアンケートを取ったのですが、『ミニシアターでやっている作品になかなか手を出しづらい』という声がありました。それを踏まえて、作品とどう向き合っていくべきなのか、という課題があるのだと気がきました。どのように自分達の世代がミニシアターと関わっていくべきなのか、ということがわからない状態にあるのだと感じています。

Q4 木全さんは、若者にミニシアターにどう向き合ってほしいとお考えですか。

● 若者に…？

— はい。

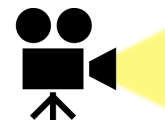
● さっき言ったように、相当長い道のりになると思うので…ミニシ

劇場運営に携わる方に伺ったミニシアターのあれこれ

ミニシアターについてもっと知りたい！この機会に色々な方からお話を伺いたい！と考え、今回名古屋にあるミニシアターのうち、名古屋駅西口にあるシネマスコーレさんと大須商店街近くの大須シネマさんにインタビューをさせていただきました。



KIMATA JUNJI
木全 純治さん
シネマスコーレ 代表取締役



木全さんが代表取締役を務めるシネマスコーレは、名古屋のミニシアターといえば！の劇場であること、そして、2022年12月にシネマスコーレが題材の映画の撮影ボランティアに参加したこともあり、個人的にも興味深い場所です。ミニシアターの話はもちろん、それだけでなく映画に対する木全さんの「熱い想い」を今回は伺うことができました！

常に好奇心を持つ気持ちで
忘れないでほしい

アターに来る若者は多分1〜2%だと思っただよ。きつと。

例えば、シネコンに100人行きました。その中でミニシアターに来てくれる人って、相当変わってる人だと思われちゃうんだよね。そういう人達って変わってる人なので、もうやりたいことが決まってるんだよね。だから多分学内の人とも同居しないような、そういう人達なんだわ。でもね、多分そのうち2%の人達が次の時代を引っ張っていく可能性のある人達なんだよね。そして98%の人達は多分今の世の中の同調圧力によって、すーっと流されていく都合の良い学生さんになっていくという人達がかなり、もうほとんどでしょう。

だからそのね、変わった人になれるかどうかという。非常に難しいことだね。それくらい壁のあることとか、遠いことですね。でも自分達が「映画を作る」というところという場所に関わらざるを得なくなってくる。自主映画でも良いんだけど。

——シネマスコーレのホームページに載っていた若松監督へのインタビューのページでも、「映画は作るの簡単だけど、見せるのが難しい。」という言葉がとても印象的でした。それを知った上で今のお話を伺ったのでなるほどと繋がりました…！

●だから見せる場合、学生が撮ったものは学内で終わるか、一旦外に出したいとなるとシネコンではないわけね。こういうミニシアターになって、初めて接触が行われるわけですよ。映画を撮ろうとか、もう一歩踏み出してもらった時しかこちらに来ていただくきっかけはないんですよ。だから遠い道のりだと思えます。

——私の大学でも映画制作の授業があります。でも、学内に観られる環境が備わっている状態なので、せっかく作ったのに学内で完結してしまうのは何だか勿体無いという気持ちがありました。その授業を受けていた時はミニシアターのことを全く知らなかったのでも、今お話を伺って、ミニシアター

という場を活用して社会の目に触れる機会があったのもよかったのではないかと思います。

●その映画制作はあくまで学校の授業の中でのものであって、社会の目には触れないわけね。だから、「やりましたよ」という程で終わっていく。もしその中で強烈な人がいて「自分の作品を世に出したい！」という意思がある人がいると、こうして社会に触れ合うんですけどね。さあ…そういう人はいますかね。

——今までそういった方はいらっしやいましたか？

●2人いるよ。あなたと同じ大学の。1人はシンガポール行って日本語教えているし、もう1人は東京で映画制作をやっているよ。たまに面白い子が出てくるんだな。

——そういう方は1人で踏み出して行く方ですね。

●そうそう、もう自分でね。だから逆に、順風培養された人がある日びゅーっとこの世界から飛び出して行く。そういうひとつのエネルギーがあるかもしれないな

だから面白い子がいると思うんだ(笑) そういう子が今まで来ているから。ちよつと変わっていないと。こちらから行ったところで食い付いてこないわけね、学生達は。

でも世の中はだいぶ変わってきているから、ある流れに乗って、行って、充実した暮らしを送れるかどうかは不安定な時期だよ。

——そうですね…

●自分で何かを見つけていかないとけない時代はなってきたているね。だからこういう社会に触れ合っていくっていうのは、すごい面白いことだと思うんだよね。

——自分自身も撮影のボランティア参加させていただいたので、実感しています。

●あれは何で参加したの？

——ゼミの先輩からボランティアを募集しているとお声がけがあったて、行きました。その時まさにミニシアターに興味を持ち始めた時期だったので、これは行くしかない！と思い1人で飛び込み参加しました！

●じゃあそれは、ひょつとしたら

…可能性を持っているかもね。
——ありがとうございます！

Q5 では改めて、今後のミニシアターへの想いについて伺いたいです。

●コロナがあつて、2020年から3年間ミニシアターは結構大変だったわけですよ。まあどこもね、大変だったと思うけど、その結果として名演小劇場が休館となり、シネマテークが7月28日に閉館となり、京都でも京都美術館というのがもう閉館になるというのが発表されて、古くからあるミニシアターと新しくできたミニシアターとがちょうど移り変わりの時期に来ているんですよ。

そして全国的にはミニシアターが増えているんですよ。なんで増えているかっていうと、今まで成り立たないと思われた場所でもミニシアターが成り立つ条件が増えてきたから。公開本数がものすごくあるので、それは地方に行くと見られないわけなんですよ。でも、今まで成り立たなかったところで

ミニシアターが増えつつあるんですよ。一番古い所は岩波ホール。ここはミニシアターの走りなんですけど、ここはもう2年前かな？くらいに閉館したわけですよ。シネマテークとかうちももう40年になりますけど、ちよつと作った人たちの代替わりの時期なんです。そして、新しい人達がミニシアターというものを次の世代に向けてどう売り出していか、そこが鍵になってくる。

だから今ミニシアターは、世代交代の時期になっているんですよ。まあ面白い時期ではあるよね。

だから、僕自身「ミニシアターについてどうですか」と言われたら世代交代の時期になっているんですよ。うちはもう世代交代したんですよ。

——支配人の坪井さんですね！

●そうそう今年ね。うちはもう早かったんだけど、3月に名演小劇場、6月にシネマテークがパタパタと変わったというか、ちよつといち早く世代交代の気があったんだろ。そんなこと意識して

いなかったんだけど。僕は若い世代というか次の世代に受け渡すというか、体験させたいなっていう思いがあつて交代したんですよ。客観的に見た世代交代が実は起こっているんだけど、その走りみたいなところが多分僕の考える時代なのかなって思います。だから僕に次のミニシアターがどうこうっていうよりも、坪井に聞いた方がいいかもしれないね。

僕がやってきたことは、日本のインディーズとアジア映画を広めたいということをやったんで、坪井はまた違うと思うんだよね。

——お好きな映画のジャンルも全然違うんですよ。

●そうそう。ホラーとかスプラッターとか、彼は好きなんだけど、僕は嫌いなんだよ。けど、それもジャンルじゃない？好きとか嫌いとかじゃなくて、次の世代の人達がどういうものが好きかなんだよ。若い人は結構そういう映画観に来てるもんね。だから今まで来てなかった人達は、僕の選ん

だ映画では来ないわけなんだよね。僕の好きな映画は正統派というか、シネコンでやっているものとは全く違うんだよね。

——確かに、ここに来て観なければ触れることのできないジャンルだなというのがとても印象的でした。

●それは僕の「個性」になるわけで。ミニシアターっていうのはかなり支配人の「個性」によって左右される場所なので。シネコンあるでしょ？あれはほとんど東京で番組が構成されるわけで、チェーンマスターっていう人がいてその人が組んでそれを消化しているだけなんだよ。だから何も面白いことはない。基本的にね？映画を組む楽しみのっていうのはシネコンの支配人にはないしよ。

——撮影ボランティアに参加して感じたことがあつて、シネコンは人が集まる場所であればボンボンできて行くじゃないですか。でも、ミニシアターは色々な想いがあつて、物語があつてできていているのがすごく面白いと思

PHOTO GALLERY



ました。なので漠然と消えないでほしいなっていう思いがありますね。

●こっちはも努力するけどね、まあ願っただけだと消えちゃうんです。要するに採算で成り立つわけで、採算がないと消えていく。でもこちらがいかに面白い場所であるっていうことを常に提示していかないと、それはもう見捨てられて行くんだよね。だからこちらもどんどん発信する中で、好奇心を持つてね? そういう好奇心を持った人たちが増えるといいですね。

Q6 では最後に、私達のような世代に対して、ミニシアターにどのような関わってほしいですか。

●まあ基本、若者から見て魅力ある場所じゃないと来ないわけじゃないですか。基本的にね。だから、お化け屋敷じゃないけど、「ちょっと行ってみたいなあ」っていう気持ちが生まれるような施策を劇場側がどんどん打ち出していかなければいけないと思うんだよね。



CHECK

若松孝二さんについて

映画監督。1963年『甘い罠』で監督デビューを果たす。

1965年に「若松プロダクション」を創設。作品は学生運動を行っていた若者達などから支持を受けたが、当人は『学生運動を支持するために映画を作ったことはなかった』と語っている。2018年には1969年の若松プロダクションを舞台とした青春映画『止められるか、俺たちを』が公開され、井浦新さんが当時の若松監督を演じた。2023年12月にはその続編となる『青春ジャック 止められるか、俺たちを2』がシネマスコールにて先行上映された。

シネマスコール

1983年に映画監督の若松孝二さんが「若い映画監督が作った映画を上映できる場を提供しよう」という想いを込めて開館した映画館。面白いと思った作品ならジャンルに関係なく上映することをモットーとしている。

「シネマスコール」とはラテン語で「映画学校」を意味する。

座席数：51席

住所：名古屋市中村区8-12 アートビル1F TEL：052-452-6036

アクセス：JR名古屋駅太閤口よりビックカメラ方面へ徒歩3分

「わからなさ」を 楽しみに来てほしい



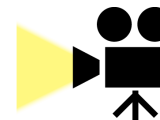
TOKUMARU KAITO
徳丸 魁人さん
元イベントアシスタント
マネージャー

KATAGI TAKURU
高木 卓瑠さん
映写主任

NIIMI TOMORU
新美 朋瑠さん
管理部アシスタント
マネージャー

2019年、名古屋初の映画館が生まれた街「大須商店街」に30年ぶりに復活した映画館。2020年には「特定非営利活動法人 大須シネマ」から「株式会社 大丸」に運営が移るなど。そんな背景を持った大須シネマに創業初期から携わっていらっしゃる徳丸さん、高木さん、新美さんのお三方にお話を伺いました。

3対1のインタビューに少し緊張しましたが、お話を伺う中で皆さんの映画に対する情熱を感じ、緊張よりも「もっと伺いたい!」というワクワク感の方が高まってきました。



新美さん ●
高木さん ●
徳丸さん ●

Q1 何故映画館に携わろうと思ったのか教えていただけますか。

●そうですね。僕は高校・大学と映画制作をしておりまして、クラブ活動だったり、大学生の時はそういったことを学ぶ学部にも所属して映画を作って、それでそのまま映画に関わり続けていきたいなと思っていました。丁度僕が卒業するタイミングでこの募集があったのでそこに応募して、採用してもらって今も働き続けている感じです。

— そうなんです、ではこちらで就職されたんですね。

●そうですね、最初はアルバイトとして入ったんです。

●じゃあ私も、言いますか。私は大学生の時にここに入っただけですが、元々はシネコンの方でアルバイトをしてまして何となく映画が好きで今新しい映画館なんてなかなかできないので、「あ、新しい映画館できるんだ。」っていう気持ち

で応募して今ここにいてるって感じですね笑

●僕も大学生の時に、当時劇団に所属していて、それで大須に七ツ寺共同スタジオという劇場があるのによく来ていたんですけれども、何かたまたまそこで芝居を見た後に映画館の角の所?今カレー屋さんみたいな、お店がある所?が僕が大学3、4年生の時に韓国系の居酒屋だったんですよ。そこで飲み食いしていた時に、張り紙が貼ってあって、『映画館ができます。スタッフ募集中』みたいなことが書いてあって、自分は映画も好きだったので「じゃあ働いてみるか。」って思って、ここに来ました笑

— 結構皆さん「面白そうだな」って感じでここに来られてるんですね。色々なきっかけがありますね。

Q2 今まで色々な作品をこちらで上映されていると思うんですが、その中でもおすすめの作品を教えてください。

— すごい! いっぱいあると思います

ですが...どうでしょうか?

●上映した作品で?

— 今まで見た中でおすすめの作品でも大丈夫です! 所謂ミニシアター系の作品と言いますが、他の劇場で見た作品でも大丈夫です。

●じゃあ浮かんだ人から! 笑

●じゃあいいですか?僕は、アン・ドレイ・タルコフスキーっていう旧ソビエトの映画監督がすごい好きなんですけど、その監督の特集上映ですね。ミニシネマとかではある監督の作品を3つ4つを特集上映っていう形で同時期に上映しようっていうことをよくやるんですけど、この大須シネマでもその監督の、彼が旧ソビエトにいた頃の作品を何作品か上映した時に『惑星ソラリス』っていう1979年の映画を上映したんですけど、僕はこの監督がすごく好きで、何て言うんですか、それをおすすめ?っていうか、これは僕の偏見ですけど、ロシアとか寒い所の人の映画って、何ていうかな... 思い詰めて... ような... 笑

映画を作るんですよ。多分それは当時、社会的に抑圧された芸術家達が何とか自分のやりたいことをやるうとしたら結果的に暗喩的というか隠喩的というか、遠回しに政治批判みたいなことをするように、表現の自由がなかった時代にゆっくりな映画で、それでいてなんていうか... 話そうとするとあれですね... 笑

すごい映像が美しいっていうのと、ゆっくりとした時間感覚があってそれが好きっていうのとあと、クラシックとかが好きだった人なので、「芸術として俺はやっていくんだ!」っていうそういう意思が感じられるのが好きで... まあそうですね、『惑星ソラリス』をおすすめします。

— 初めて聞いて、本当に色々な作品があるんだなって改めて感じました。ありがとございます!

●じゃあ僕はですね、所謂シネコンとかでやっている「娯楽作品」というものではなく、アート系だったりインディーズ系だったり意識し始めたのが、塚本晋也監督の

『鉄男』っていう作品です。

● いいね、カッコいい作品ですね。

● うんうん。

— アート系の作品ですか？

● そうですね。アート系の作品なんですけれども、実際はもっと自由な、何でもありなんだな〜っていうものを教えてくれるような作品ですね。

— ありがとうございます！

● 質問何でしたっけ…ミニシアター系で好きなもの？おすすめもの？じゃあ私、違うやつにしますね。『J・ジュテ』かな…

あの、過去に大須シネマで上映した作品で『ラ・ジュテ』というフランス？の何年だったか覚えていないんですけど30分くらいでしたっけ尺。正直内容全然覚えていないんですけど、SFですね。SFなんですけれども、内容覚えてないけどもすごく好きだったな〜理由はわからないですけど、ごめんなさい笑

— ありますよね！好きなもの程語るのが難しいっていう時！

— ありがとうございます。私はこ

の卒業制作を機に色々なミニシアター系の作品を調べてはいるんですけど、中々どこから手をつけていけばいいのかわからない状況です…

Q3 これから来る観客の方、特に初めて観に来る方にどんな気持ちで入ってきて欲しいなどの想いはありますか？

— 正直、ミニシアターは入りづらいという印象があります…

● 入りづらいですね！ミニシアターって、私たちの一番の課題ですね。いかに色々な人を呼ぶかっていう。どういう人がきて欲しいんですか？

— どういう心持ちで来て欲しいんですか？

● 私は、そんな映画が大好きで映画が詳しくてという人は求めてなくて、むしろ『ミニシアター』に来てる自分ちよってほしい！とか、おしゃれ〜とかそういう軽い気持ちで見に来て欲しいなあっていう感覚はありますね。SNSに「大須シネマ来ました」っていうこ

とを上げるくらい。『ミニアック』な映画好きは求めてなくて：気軽にふらっと来てもらえらるる。大きな映画館じゃなくて『ミニシアター』でアート映画見てる自分ちよってほしいな〜くらい。の心持ちで来てほしいっていうのはありますね。おふたりはありますか？笑

● ミニシアターっていうジャンルに囚われることなくそういうの取っ払ってしまっって、大きく映画館というくくりとして考えてもらって、同じような感覚で来てもらって、入りづらいっていう話がさっき出ましたけれども、その入りづらさっていうのも楽しんでもらって。うちもそういう感じにしたいからなあと思ってあります。その最初の一步を越えたら、もう入れるみたい。

● 新世紀観が待ってますからね笑

● そう、新世紀が待ってるんで笑

— 私もそうですね、『意外と行ける』って言い方は良いかわからな

● わかんないかもわかんないですもんね

— 先程、わからないことを諦めないで欲しいというお話が出ましたが、

Q4 皆さんが初めてミニシアターに入られた時はどんな気持ちでしたか？

● 覚えてない…私は全然覚えてないなあ〜笑どこで何を観たかも覚えてないですね。

● 僕は高校生の時、行動範囲がだんだん広がっていき時期に多分行って…シネマスコレさんだったかなあ。まあミニシアターってどうしても、先程もありましたけど入りづらいとか、場所もちよと怖いというかそういう場所にあるので、やっぱりまあ、入りづらかったかなあ…

— ミニシアターに携わっていらっしやる方でも、最初は入りづらかったんですね。ありがとうございます。ではまた質問が変わるんですけど、私はこのインタビュを通してミニシアターは

色々な役割を担っていると感じておりました、

Q5 皆さんから見て大須シネマはどのような役割を担っていると思いますか？

● そんな感じのことたまに話してますけどね、何話してましたっけ

● 当館は出来上がった当初は「2番館」と言っって、新作ロードショーという形ではなく所謂上映がだいぶ前に終わった作品などをやるものが多くですね。新作ではなく20年くらい前とかの作品も上映してありまして、「昔の映画」ってだけでも良い作品はたくさんいっぱいあるので、そういう映画にも触れていって欲しいなというのが、スタッフ一同あると思いますね。

● うんうん。● ありますね。

● 多分最近、封切り作品も上映させていただけることが増えたので、また色々な作品が上映できたらなあと思っております。

● 進化中ですね

● よく言えばジャンルぐっちゃぐちゃで何でも幅広くやっている映

いんですけれども。言い方が難しいですね。入ってしまったら普通の映画館と言いますか。「は〜！こんな街中に映画館があるんだ〜！」という印象を受けたので、先程のお話を聞いて、共感と言いますか、なるほど！って思いました。ありがとうございます。

● じゃあ僕は、何て言うんですかね。僕が最初にミニシアターに行った時は、「難しい映画を観よう」みたいな気持ちで行ったんですけど、でも、それで何か今言えることは「わからない」っていうことを諦めないでほしいという感じがあって。だから「難しかったからもう俺の世界じゃない。もう行かない。」ってなっちゃう人とか多分いるんですけど、僕も最初はさっき言ったタルコフスキーも「何言うてるんだろ〜うな」みたいな「これどういうことなんだろ〜う？」ってずっと思いがながら観ていたんですけど、未だにわかっているのかどうかわからないと言いますか。そもそも「わかる」って何なんだよ笑っていうところもあるんです。

画館って言う感じですかね。

● 作品ごとにスケジュール合わせてるよね。

● 当館は大体2週間毎に作品が変わって〜んですけど、その中で大体テスト？例えばこの間でずとモロツコの映画2つ、同監督作品なんですけれども合わせてみたり

● 次だと女性の映画、女性が苦勞する映画とか。何となく監督で合わせてみたり、テストで合わせてたり雰囲気合わせてたりっていう風には組んでいますね。

1作品観て、違う作品に興味を持ってもらって…っていうのは大須シネマの特徴？ですかね。

● 少しでも多くの作品に触れていただけるように。一日中居る方もいらっしやいますね。連続で観ていける方もいらっしやるんで。

● あとインディーズアニメとかですかね。

● そうですね、インディーズのアニメとかも上映したりとか。

大須シネマ

出来上がった当初は二番館として昔から愛される作品を上映し、今では封切り作品やインディーズ作品も上映するなど、ジャンルに囚われない上映スタイルが特徴の大須の街らしさ溢れる劇場。

座席数：42席

住所：名古屋市中区大須3丁目27番地12号 TEL：052-253-5815

アクセス：名古屋市営地下鉄鶴舞線・名城線 上前津駅8番出口より徒歩6分
名古屋市営地下鉄鶴舞線 大須観音駅2番出口より徒歩5分

Photo Gallery



大須商店街 万松寺通の
路地を曲がってすぐ！



Lobby



インタビュー時は
ワニ・サメ映画の特集中！



毎回作品に合わせて装飾を工夫されるそう。

Information

● 何人かの監督さんの作品と一緒に上映して、「インディーズアニメの特集上映」という形で発信したいと思っています。

— 色々な劇場がある中でアニメ作品も取り上げられてるのが、とても印象的でした。大須の街に合っていると言いますか、そういったところどの形にも囚われてないと言いますか。やっぱり劇場ごとでこんなにも特徴が出るんだなと改めて感じました！

● よかった！ーありがとうございます。

● ミニシアターってそうですもんね。

Q6 では、これからどういう風に進化していきたいか、などありましたら教えてください。

● 進化か：でもまあまずは、お客さんがね。増えなければただ良い作品でも、良い作品だからと言ってお客さんが増えるわけでもないです。人が100%入ったからって言ってそれが良い作品かもわからないですね。まずは課題

は人を増やすことかな。

● 若い人にも来てほしいですね。

● そうですね。世代的に。

● たまにカッパルでいらっしやったり、5人くらいの若い人達が「映画観ようぜ」って感じで来てくれたり、予定のついでで観にくる人がたまにいらっしやるんですけど、そういう人が増えてくれると結構集客も増えていくかもって思うんですが。

● 集客ですね。

— 大須の街にあってメインの客層はやっぱり高齢の方が多いんですか？

● 40代くらいかな？

● 40代50代くらいが一番多いですがね。

● オープン当時はおじいちゃん、おばあちゃんが多かったんですけどもね。作品が日活の作品とかが多かったんで、今はでも30〜50代くらいですね。ミニシアターに馴染みの少ないと思われる20代の学生さんとか増えてくれると嬉しいですね。若い人だと拡散力があるんで、それも嬉しいですね。

SNSとかで広げてくれたら嬉しいな〜って。

— 私も頑張ろうと思います…！卒業制作にそういった用途も入れたいと考えているので、自分もまだまだ触れている途中でですけども、もっと人が増えて欲しいですとか知るきっかけになったらいいな、と思って取り組んでいるので、頑張ります。

— ではこれで、私が用意させていただいた質問は以上になるんですが、追加で何かメッセージなどいただけますでしょうか。

● まあ来てね。かな笑

● そうですね。一回来てしまえば、そこからはもう気軽に来れる場所になるように動いているのでこちららも。

● 大須シネマとしてたまにSNSで「今回ベトナムの映画を上映するから、映画見終わった後にベトナムの料理食べてくださいね〜」っていう風にSNSで投稿したりしているんで、やっぱり大須ってグルメの街でもあるので、ご飯と映画をセットにして何かもうちょっと、ただ大須に何となく行くんじゃないって、今回は食べ歩きじゃなくてちゃんとご飯を食べよう！みたいな気持ちで映画を観て吞んで帰るか〜みたいな流れができて、それがメジャーになればいいかなって思ったりもします。

● いいですね、セットで。映画プラス何か楽しんで行くっていうね。

● 流石にワニ料理はなかったですね笑

● うーん笑あるんですけどねーありそうですね！笑

今ワニの特集中ですもんね！

● そうなんです！いつもはこんなじゃないんですよって言っちゃだめなんですけども笑
それもミニシアターの強みですかね。



卒業制作を通して感じたこと、考えたこと。

伝えるメディアとしての映画

今回卒業制作を通して気付いたことがあります。それは、「映画」には2つの役割があること。「伝えるメディア」としての役割と、「娯楽」としての役割です。私はミニシアターで上映される作品は「伝えるメディア」としての映画に当たり、一般的なシネコンで上映される映画は「娯楽」としての映画にあたると思っています。

その理由は、いわゆるミニシアター系の映画は社会問題などを取り上げた作品やドキュメンタリー映画が多いこと。一方で、シネコンの映画は鑑賞時に面白い・楽しいという感情を抱くものが多いと思うからです。そして、若者がミニシアターに足を運ばない理由もここ

にあると思います。それは、若者が社会問題やドキュメンタリーをテーマにした作品に対して「面白くないから観ない」という思いを抱くからです。私も今までそのような感じてしまいうもの、娯楽のひとつだと決めつけてしまっていました。しかし、ミニシアターのことを知っていく中でそうではないと気付きました。映画は面白い・面白くないという基準だけではないと分かったからです。なぜなら、映画は「伝えるメディア」のひとつであるからです。



若者の情報の集め方

「若者は、ミニシアター系の作品を面白くないと思うから観ない」と先程述べましたが、この状況は自分も含め近年の若者の情報の集め方も拍車をかけていると言えます。それは、「欲しい・知りたい情報」だけを選んで取り入れている傾向にあるということです。

例えば、コロナ禍を機に急激に発展・普及したサブスクの映画やテレビ番組の利用。これにより、映画館に行かなくても、テレビを持たなくても映画やテレビ番組を観ることができる環境となったため、好きな情報しか取り入れない傾向がより一層強まっており、そうでない情報に目を向けなくなっていると思うのです。



2018年公開の『万引き家族』が話題となった是枝裕和監督もおっしゃっていました。「人々が、自分が見たい・聞きたい情報だけを取り入れ。そうでないものを排除する傾向が強まっている。視野がどんどん狭くなる。コロナ禍を挟んで世界中に広まっている。そんなことを考えながら撮影した。」(今年開催された第76回カンヌ国際映画祭にて、『怪物』の選出を受けて取材に応じた際の言葉。)

このように、欲しい情報だけを選んで取り入れる若者の傾向がミニシアターへ向かう足をまた遠ざけてしまっているのかもしれない。

ミニシアターの役割

ミニシアターは、劇場ごとに独自性を放っているというのが最大の特徴であり強みであると序盤のページで述べました。加えて私はこの劇場ごとの「独自性」という点について、ミニシアターという場所は、劇場ごとにそれぞれ役割も担っているのではないかと感じました。

例えば、愛知県名古屋市にあるシネマスコーレは、映画制作者との関係性が濃いことから「映画人を支える役割」。東京都東中野にあるボレボレ東中野は、ドキュメンタリー映画の聖地として「魅力的なドキュメンタリーを発信する役割」。岐阜県柳ヶ瀬にあるロイヤル劇場は、全国で唯一35ミリフィルム映画を毎日発信し

ていることから「35ミリフィルム映画の文化を伝える役割」を担っていると考えています。このようにミニシアターは、「一言に『映画館』と言っても劇場ごとに異なる特徴を持っており、それだけでなく、ミニシアターとしての役割もそれぞれ担っていると思います。

もし、この雑誌を読んでミニシアターに行ってみようと思ったいただけたら、作品だけでなく劇場ごとの特徴にも是非注目していただきたいと思います。



同世代に観てもらいたい作品

この卒業制作を機にミニシアター系作品に触れていく中で、個人的にこれは刺さった！同世代にも観てもらいたい！という作品に出会ったので紹介させていただきます。

2001年に製作・公開され、今年2023年にリバイバル公開された『ゴーストワールド』です。ダニエル・クロウズのコミックを映画化した作品で、舞台は1990年のアメリカ、都市郊外の町。高校の卒業式を迎えた、幼馴染みで親友の2人の少女イーニッド(ソーラ・バーチ)とレベッカ(スカレット・ヨハンソン)が理想と現実と葛藤しながらも、社会の中でどう生きていくかを描いたものです。大学4年生という

学生最後の年を迎え、アルバイトや就職活動なども経験している自分にとって刺さるものがありました。進学や就職などの社会のルールに乗らなければならない現実と、自分らしく生きることのバランスに葛藤する様子が描かれており、それが自分の今までの人生と重なり、感慨深かったです。

また、これは余談ですが主人公の1人イーニッドのファッションがコロコロと変わる様子が観ていて面白いのでそこにも注目していただきたいと思います。



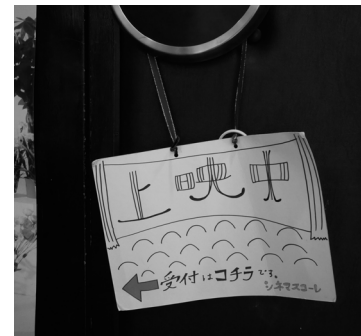
SANPO ミニシアター行ってみよ。

2024 年度卒業制作特別号

発行者 伊藤舞佳
印刷・製本 冊子製本キング 様

ご協力 シネマスコーレ
木全純治 様

大須シネマ
高木卓瑠 様 / 徳丸魁人 様
新美朋瑠 様 / 杉山薫 様



SANPO

ミニシアター
行ってみよ。

